

# 平成 29 年産米の作柄概況および 平成 30 年産米に向けて

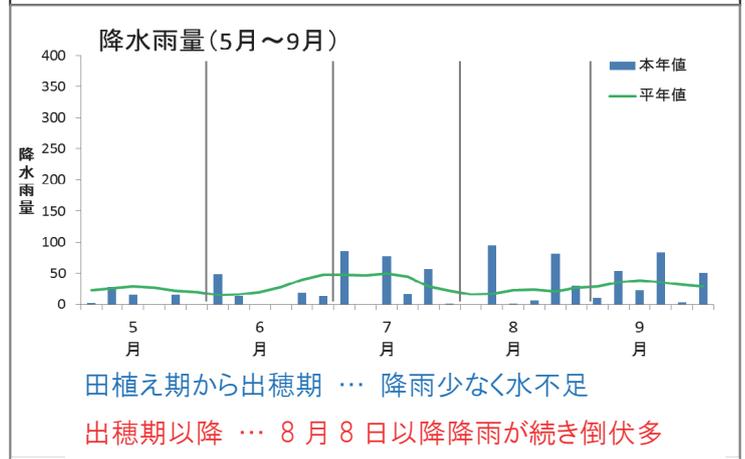
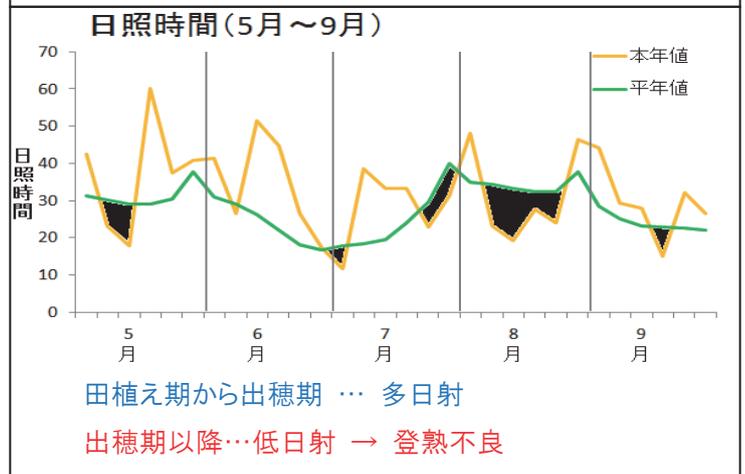
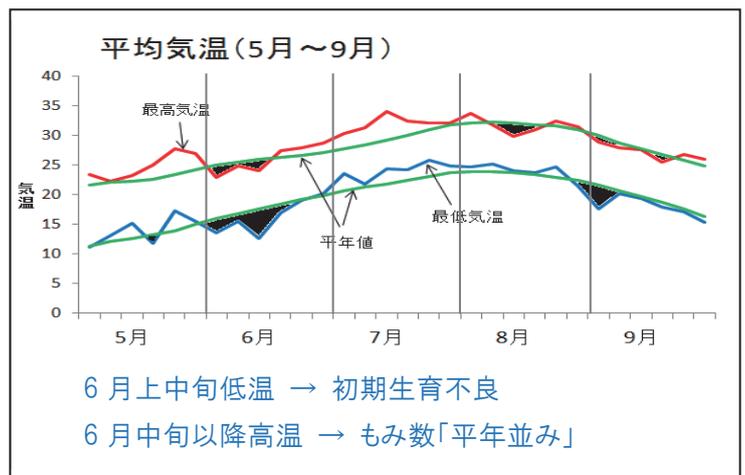
平成 29 年産米は田植え時期から低温で推移し、7 月は高温になり生育は回復したものの、8 月の長雨、日照不足の影響により、網下率が高く、収量は昨年度を下回る結果となりました。

11 月 10 日現在の集荷状況は、122,104 俵（前年対比 97.8%）となり、その内訳については倉前・良質米で 97,153 俵、カントリー・ライスセンターで 24,951 俵となりました。

コシヒカリでは、登熟期の高温障害を受けなかったため基部未熟・背白・腹白が少なく、特に特裁コシヒカリにおいては整粒値・食味値が昨年より全域で高く、インセンティブ買入制度の対象数量は、6,095 俵（前年対比 161.2%）となりました。

## 年度別インセンティブの状況

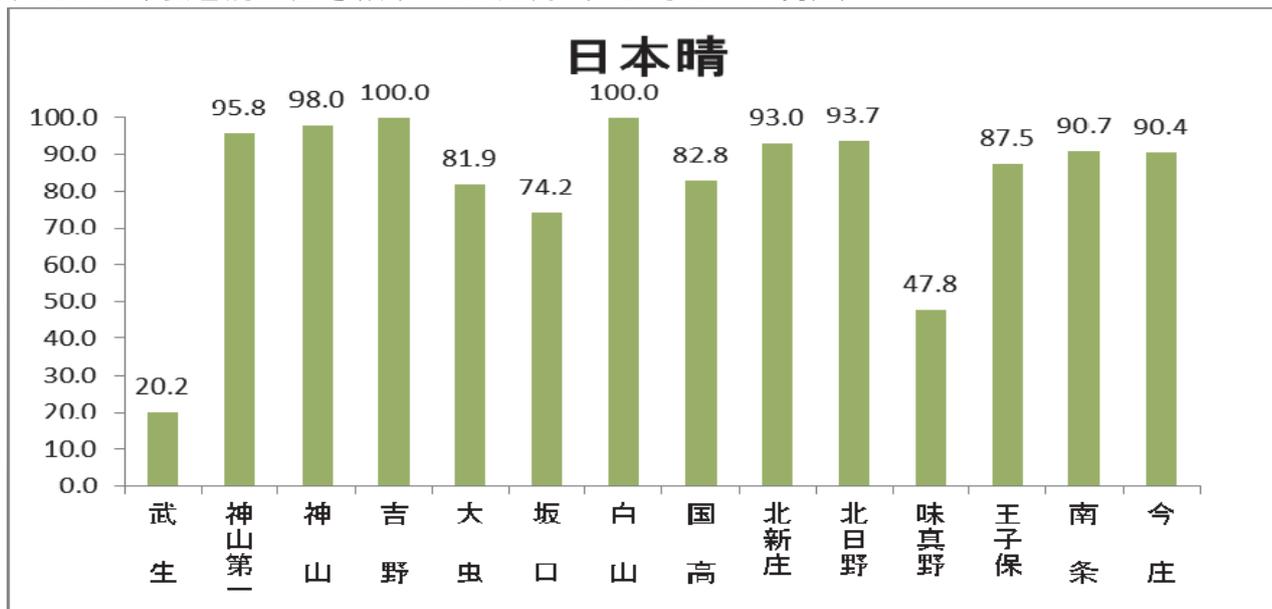
年度	項目	特別栽培米	インセンティブ	割合
	コシヒカリ	出荷数量（俵）	対象数量（俵）	
平成25年		20,000	120	0.6%
平成26年		15,914	557	3.5%
平成27年		10,607	4,720	44.5%
平成28年		16,584	3,781	22.8%
平成29年		17,545	6,095	34.7%



日本晴については、コシヒカリと同様に収量が減収となりましたが、品質は昨年度に比べ良く、上位等級比率 88.6%となりました。

平成 30 年産米についても、農家の皆様の所得向上を図りながら、日本晴の一大産地を目指してまいりますので、平成 30 年産についても日本晴の作付拡大をお願いします。

平成 29 年度倉前上位等級率 88.6% (10 月 31 日現在)



## 買入価格メリット

慣行栽培 作付品種別販売代金の比較

参考：平成29年産販売価格(内金+追加払い)

単収：ハナ8.5俵、コシ8.0俵、日本晴9.0俵

円/10a

■ハナ販売代金 ■コシ販売代金 ■日本晴販売代金

